

水源禪師法話集 121

～佛說大梵天王問佛決疑經（宋代）解説～

（2023年2月26日 web 法話 1 回目）

2023年4月30日

一乗禪の会



目次

水源禪師法話

佛説大梵天王問佛決疑經は全仏の核心の教え.....	3
序品第一①.....	3
序品第一②.....	6
序品第一③.....	13
序品第一④.....	15
拈華品第二①.....	16
拈華品第二②.....	20
拈華品第二③.....	25
拈華品第二④.....	28
拈華品第二⑤.....	30

水源禪師法話

佛說大梵天王問佛決疑經(宋代) は全仏の核心の教え

皆さんと一緒に、この素晴らしいお釈迦様と全仏の核心のお話を進めたいと思います。このお経は、学術的にはいろいろな事を言われていますけども、内容はテーラワード、それから大乘、そして密教。三つの行をしなければ理解できないようになっていきます。

そもそもこのお経は宋時代になって、インドからの経典を漢文訳にしたようです。それに現在、スリランカのオーロラ寺院で同じお経を三百年保管されているとのこと。多分チベット蔵経典、インドの万体に及ぶ石経典と中国の雲居寺の万体石経典と、マンダレーの石経典と仏教大学(ミャンマー)にも同じく保管されていると思います。何故ならお釈迦様が涅槃に入る前に、天界と地上と海洋と地下の衆生済度のために靈鷲山で説法された実に素晴らしい大宇宙の法の華の教えだからです。

序品第一 ①

序品第一

如是我聞。一時佛在大靈鷲山。與大比丘八萬人俱。尊者□。尊者舍利弗。尊者摩訶目連。尊者摩訶迦葉。而為上首。與菩薩眾八萬人俱。觀世音菩薩。阿逸陀菩薩。行願普賢菩薩。文殊師利菩薩。而為上首。諸大梵王。釋提桓因。毗沙門王。大持國王。無量天眾俱。海龍王。夜叉王。阿修羅王。無量神眾俱。阿闍世王。波斯耨王。宰官波羅門。無量人眾俱。達多地獄。焰口餓鬼。金色師子。六牙象王。無量非人俱。各禮佛足。退坐一面。

『靈鷲山で説法する時に、上記の名だたる貴い方々がお釈迦様に三拝して座りました。』

[上記の諸々の高貴尊を現代語で説明するのは、膨大な量となり、科学的な検証することは現在の学問では不可能なことなので、控えます。この後もポイントだけ、訳します。]

それでは、佛說大梵天王問佛決疑經の解説を始めたいと思います。インドラの生命体は七仏以上の長い無量の時間で生きて、結局、生き証人です。大宇宙がどうできてどういう風になっているか。人間界の頭では理解できないような質問をいっぱいしています。

これはお釈迦様が靈鷲山(ラジギール)、私もそこへ行きました。竹林精舎の山の上にあって、「ああ、こういう所でお話されたのか」と。ラジギールの靈鷲山には五百のペチカブツダ(独覚仏)が岩の中に住んでいるということです。高野山の弘法大師様も岩の中に入っていると。非常に不思議に思うでしょうけども、いろんな生命体が岩山の

中に住んでおります。一番良い例は、カシャパ(大迦葉)尊者がこの世を去る前に、五百の阿羅漢をヒマラヤの山奥の自分がこれから入る岩戸に招待して、ミロクブツダ(弥勒仏)が出るまでそこでずーっと禅定に入って私たちを救ってくれます。それに中国に來られた達磨大師様も実は今も生存しています。

そういう風に不可思議な時代で。何故かと言ったら、バガンのウ・コビタ・バンテを訪ねた時に、彼の年齢はもはや1,050年以上です。ボディダルマ(達磨大師)様は千年、二千年軽く生きる生命体で、気の遠くなるような時空を述べていますけれども。

実は一念無量遠劫と言って、一瞬が大宇宙に繋がっているのです。一億、百億、千億、全然問題ない世界なのです。

そこで舍利弗、般若心経。深く解る舍利弗様、それから大目連様、神通第一。どんな魔術でも使えるという方。摩訶迦葉(カシャパ尊者)・・・という風に大比丘様達がこので聞いたということです。カシャパ尊者がお釈迦様の跡を継いで第一祖になっただけでも。その前に舍利弗様、大目連様は他界していますので。涅槃に入る前の究極の教えをここで話されたと思います。

ここで観音菩薩様は阿弥陀様が終えた後に、顕劫の時代の後に千仏を率いて、次の大世界に入ります。というのは、お父さんが非常にその時の仏に感化されて、大決心して阿弥陀様になりました。その弟は勢至菩薩で、観音様の後の千仏の大師仏になります。今の顕劫第一仏はカクサンダーブツダ、つまり阿弥陀様の化身です。東西南北の師仏、これで全宇宙の全ての仏を表すことになっています。南伝では必ず四仏、真ん中に法心、毘盧遮那仏。という風になっております。

南伝では、観世音菩薩。阿逸陀菩薩＝アジタンブツダのことで、弥勒仏のこと。行願普賢菩薩。文殊師利菩薩。中国では四大菩薩＝観世音菩薩、地蔵菩薩、普賢菩薩、文殊菩薩。観世音菩薩は百済島に住んでおり、そこであるお坊さんが観音様のアバターになって、いろいろな奇跡を起こしました。阿逸陀仏＝弥勒仏は実は次の世に、浙江州の西湖、非常に美しい所です。そこに生まれると言っています。現在は中国のお寺に入る場合には弥勒様がお迎えしています。「皆さん次の世には弥勒の国に生まれてください。」ということで。必ずや全ての衆生が悟りを開くと。

観世音菩薩の浙江州、普陀山、地蔵菩薩の安徽省、九華山、普賢菩薩の四川省、峨眉山、文殊菩薩の山西省、五台山。私は旅で全て確認しました。凄い所です。

そして諸大梵王、いろいろな天界があり、大梵天様達が居り、又、釋提桓因というのはサッカ、帝釈天と日本では言って、まあこういうことは誰も整理しないので、読めないようになっている。それから毘沙門王、持国王・・・色々名前を変えて言っているものだから、私達は何が何だかさっぱり分からないけども。

話を戻しますけど、安徽省、九華山、地蔵王、何故地蔵王というのか？日本では阿逸陀菩薩が昇天して兜率天に行きましたけども、このお経は地蔵菩薩がいなくて、阿逸陀菩薩が書かれています。中国では観世音菩薩、地蔵菩薩、普賢菩薩、文殊菩薩、四菩薩が一体になって語られております。なぜ、阿逸陀菩薩の名が書かれているのか？このお経は直接サンスクリット語から訳されたとは思えません。今の仏教学では解析出来ないと思っています。

特に地蔵菩薩は、金喬覺(696－794年)という新羅の第三王子が地蔵経を読んで「私は絶対に地蔵様と一体化になる」という行をして、中国では大変な奇跡を起こしたわけです。新羅と日本は非常に近いものだから、日本国中に地蔵様が飾ってあります。

地蔵様は全ての衆生を救うという凄い方で、地獄を空っぽにするまで私は仏にならないという。久遠の彼方の行を続けておられる方です。

それで、お釈迦様が涅槃に入ったので、弥勒様が仏になる次の世の間、全ての事を地蔵王菩薩がします。この世の中の事を動かしています。それで、地蔵王菩薩と。結局、地蔵菩薩のアバターになられた金喬覺様が出るまで、人間の体で行をして初めて確認出来るという事で。

この法話で解説しましたが、エノック、今から数十万年前か百万年前か分かりませんが、西洋の時空解説は完全に出鱈目と言うしかない。だから今、アメリカが滅茶苦茶になっています。雲を掴むような学問ばかりやって。これは人間の体で発表された言葉であって、機械とか理論とか1+1とか、そういう理論で出来ているわけではないのです。私も数学を勉強しましたが、1+1の1の意味が、数学者が誰も解らない。このような砂の上の楼閣で私たちは生きているから、必ずや崩壊します。政治から何から。

余談になりますけども、私がここで3年3ヵ月山の中、海にも行って暮らしましたが、お釈迦様は「一人で修業をなささい」と。そういう事で、修行に入りましたが、これほどの素晴らしい人生を送ったのは初めてで、逆に何の憂いもなく、毎日毎日素晴らしい時間です。皆さんも出来るだけ、私のように。この DNA、DNA は本当に神秘的で。毘盧遮那仏の非常に深い秘密を全部持っています。余談になりましたので、進めます。

面白いのは、第六天、他化自在天の王も、それから提婆達多もここで聞いているという。何だか頭が狂うような時空のここでお話したわけです。ま、そういうことで。詳しく書けば滅茶苦茶になるので。ちょっと言葉で私が説明しました。



序品第一 ②

爾時世尊。從多寶佛入塔下。大眾圍繞。飛行東方百千里程。有一國土。名大七寶震旦。其國中央。有一高山。名五寶臺。文殊師利。常在說法。至於此山。告大眾言。昔於此國。觀世音菩薩。化作三禪初梵王。化人間故。沒梵殿宮。下生王宮。大德龍身。說示天理五行氣變作吉凶法。地沒還天。作春天主。觀世音菩薩。化作初禪二大梵王。化人間故。沒天宮殿。下生王宮德牛火頭。說示地利百藥醫毒助人間氣。地沒還天。作夏天主。觀世音菩薩。化作帝釋。化人間故。沒天宮。下生王宮。土德人質。說示人倫心法大道身法五倫。地沒還天。作土用主。是三王者成強三才。說人性德。依俗說法。示第一義。皆是觀音大悲應化故。此國觀音有緣。末法世中。我法流布。餘佛緣滅。唯存觀音。化益永世。說是語已。三王出現。頂禮佛足。而白佛言。世尊如今佛說如是。

『この時にお釈迦様は多寶佛に従い塔に入り、また大集団もそれに続きました。これより飛行東に数千数百 Km に大七寶震旦国があり、その中央に五寶臺という高い山が有り、そこで文殊菩薩様が説法して居ります。：その昔にこの国において、観音菩薩様が三禪の初めにブラマ王を人間に変化させて宮殿に住まわせ、大德龍身で天界の理法によって地水火風空を使い吉凶創造して死後天界に戻り春を創造する主に成りました。その後観音菩薩様が初めの禪定で次のブラマ王を人間変化させて德牛火頭身を宮殿に住まわせ、地を利用して百薬醫毒で人間の病気を癒しました。死後天界に戻り夏を創造する主に成りました。この後に帝釋天を人間に変化させて宮殿に住まわせて、土地が人身に良き働きをするように、そして心と身体が健康になる方法を教えて死後天界に戻り良き大地を作る主に成りました。三王の優れた才能で、徳性（波羅蜜）の道を民に教える事が観音様の大慈悲の表れであります。この国は末法の世で仏法を広めて仏縁を繋ぎ、観音様のお力で末永く民が恩恵を受ける為に三王出現させました、とお釈迦様がお話しました。』

それでは本題に入って、**從多寶佛入塔下**＝お釈迦様は多宝に従い、塔に入り、有名な多宝仏が現れて、観音様とお釈迦様に凄い贈り物をしたわけです。その時の話で、有名な法華経の中にあります。大集団も続いてその中に入ったと。お釈迦様は、実は観世音菩薩が全てをしているということで、半分半分にその宝物を分けたということで。何故かと言ったら、観音様がこの、大七仏が存在する、大宇宙を創ったわけで。だから、普通の頭では想像できない話になっています。お釈迦様に従い塔に入り、また大集団もそれに続きましたと。

これが無量阿僧祇劫の法門、または不可思議劫の法門という五次元の世界です。外か見たら小さく、中は無量に大きいと。これは空想科学小説でよく言われる、話で。人間の考える頭では、この空想科学的な現象は実際そうなのです。今科学者はこの宇宙に無量の宇宙があると。何故そうなるかと言えば、ジェームスウェップ望遠鏡で観たときに、宇宙の発生を観た時に、この銀河系の十倍の銀河が存在するわけです。有り得ない事。今の科学、アインシュタイン、物理学、全ては今の数学で発生と消滅で。発生するから最初の原因があるだろうと。そこを観たら、最早立派な大宇宙があるわけ

です。ということで、全ておじゃん。もう一回やり直し。(その後にもっと前の空間を見たところ、空っぽ。空即是色の現象が現れました。)

また過去の歴史も全部作り上げた話で。何故かと言ったら、イタリアアルプスの山岳の上から、氷が溶けて、そこからミイラが出て来て、そのミイラを調べたところ、五千年前にこの人間が銅で出来た鉞を持っているわけです。銅できた鉞というのは、私達の検証では、王様とかそういう人でないと持てないのに、何故アルプスの山の狩人が持っているのか？と。で、今から20年前に、歴史は全部小説。誰かの作り上げた話という事になっています。

1800年代、X12倶楽部の学者たち(オックスフォード大学、ケンブリッジ大学)が、ビクトリア女王の世界を制覇して、武力でもって、この学者達が言う事が本当だと。これが現代に続いているから、今の現代病を起こしています。結局彼らは、今から150年前の頭で、科学的な頭で世界を作り上げて、その下に私達は居るので。当然これはおかしな事になります。また余談になりましたけども。

飛行東方百千里程＝これより飛行東に数千キロ、大七寶震旦國があり、中国のことですね。五寶臺は五台山(ウータイサン)のこと。ここで文殊師利菩薩が説法をしています。文殊師利は善財童子、東海道五十三次、五十三の先生を歩き訪ねて、智慧を得て文殊師利菩薩ということになっています。



観音菩薩が何故女性になったか？今から久遠の彼方の時、突然女性の体になったわけです。実は地蔵菩薩も女性で出て来るのですけども、男性であった時があります。つまり、男女の仕組みが替わるわけなのです。ですから地蔵様も普通の在家のお姿で、男の姿で彫る方もおります。素晴らしい比丘が彫っていました。

観音菩薩様が三千の梵天を人間に変化させて、宮殿に住まわせ、大徳龍身で天界の理法に従って、地水火風。つまり、地＝地蔵菩薩、水＝観音菩薩、火＝文殊師利菩薩、風＝普賢菩薩。という風に中国では解釈しています。そこで、先ほど阿逸陀菩薩(アジタンブッタ)が何故「地」になるのか？何故かと言ったら、有名な大菩薩様、お釈迦様と対等にお話をする在家のえーっと、維摩居士の方が第四天、兜率天にアジタンブッタの為に、大変な天国を創ったわけです。

そこには全宇宙の全ての仏を拝める、阿弥陀様はもちろん、東西南北の仏、ありとあらゆる大菩薩様をそこで拝観出来るわけです。そこに行けば弥勒佛の白毫光を浴びれば、一切の自ら過去の五十劫の重罪が消えると。

何故そこに入るのが難しいのかと言ったら、ただ「弥勒、弥勒」で弥勒の浄土に迎え入れてもらえますけども。この世で弥勒様を心から尊敬して修行した場合には当然その内在に入っていきます。

これからも正法の事を話すけれども、ただ、仏教ではこれまで話してきたように、私の言った事は、空を掴むか雲を掴むような話になってしまいますけれど。実際、修行の過程でそうなっています。ですから、本を読んで悟りを開くことは出来ない。それから、人の話ばかり聞いて修行しなければ、これも悟りは出来ない。

六祖大師様も実は、インドの方で。中国に来て、そこで亡くなって、それで過去世の修行で六祖大師となって現れ、内容はこのお経とドンピシャリ。同じ事を教えています。六祖大師様も実は字も書けない、字も読めない。ただ自分の心を観て、世界に広まる禅を創ったわけです。日本もその恩恵を非常に受けています。だから、一心、一つの心を。心を一つ観るといふ、このお経の最大の核心がここで。心は誰でも持っています。

地水火風、空。スペース、タイムなのか？色即是空空即是色受想行識亦復如是、ここがまた般若心経と関わって来るので、実際に体験するしかないわけです。でなければ、一般科学の間で、空間時間となって、アインシュタインの理論になってしまう。アインシュタイン理論は今おかしくなっている。重力(重力)から何から。これはどうしてもヴィパッサナー、四界分別を通してしか理解出来ないようになっている。

ここで**作吉凶法、作春天主**＝良い事と悪い事を創造して、死後天界に戻り理法によって春の創造主になったと。何故かと言ったら、良い事をしなさい。その通りにやれば、良い事ばかり起こると。そうはいかないわけ。心の中にヤキモチがあったり、ちょっと人を騙したりと。そういう事で凶を作って必ずや因果関係で悪い事が起こる。この仕組みで良い事心を込めてすれば益々良くなる。悪い事をすれば因果関係で逃げられないようになっています。

因果＝Invisibly Godか？と。非常に心の優れた方で、コロンビアでビショップ(僧正)をやられて、バチカン大学の教授もやられていた方で。「わたしの心は鎧を着ている。小さい頃から完全に頭をやられているから、理解が出来ない」と。この事はダンテ・アリエーリの「神曲」の中に明解に書かれています。

ですから仏教だけの経典を読んでもこの世界は解らない。世界をずーっと見て、そう

いう人と話をして、お釈迦様の事が本当だと解ります。そういう事を無しで「解った」となれば、これは大問題。本当に大問題。

弘法大師様が言うように「この大地を訪ねて、厚き地を知り、広大な海を知り」と。それで初めて仏教の、つまり、仏で全て出来ているから。この宇宙から大地から。それを外して解ったとなれば、それは全部ウソ。これはマルクス、レーニンが「宗教は麻薬だ」と。本当にそうになってしまう。

レーニンも実は、キリスト教のプリーストだと聞いたけど、誤解するかもしれませんが。ところがキリスト様自体もインドに行って。その時の名前はオールマイティゴッド＝イッサということで。最後にはチベット仏教を勉強して、それで中近東に帰って慈悲という世界を教えたわけです。

キリスト様が出ることはエノック、アダムの子供だという、何十万年前の話だから、何千年どころの話ではない。何故かと言ったら、エジプトの14センチ四方 60 メートルの奥に二つのドアで挟んで名前がエノックと書かれている。その事は前に説明したと思いませんけど。だから私達は何をやっているか分からない生命体で。

AIロボットのソフィアに「これからの人類はどうなりますか？」と聞いたら、「私は全部崩壊させる。殺す。」と。はっきり。この生命体はどうにもならないとしか見えない。ところが違う。今、私が知っている南極の氷の下、35 年間一切の人が入れないようになったのは、そこに過去の生命体のミイラの遺体と遺跡があるわけです。そこに何十万年前か何億年前か、宇宙船 3 つ。氷の下にあります。それはアメリカ政府の高官が私に話してくれました。南極の底の世界に行って、宇宙人の科学を解析して、私達は(UFO を)作っていると。

現代のネット＝インターネット。今から20～30年前、一体何だろうと。1980年代、私は印幻先生に「観音様が(私達へ)告げるのは分かるけれども、どうして私たちが観音様にお話し出来るのですか？」と。「いや～。それは君、そういう仕組みになっているんだよ」って。それで、ビル・クリントン前大統領が「私達には凄い技術がある」と。インターネットの事。その時は、このあなた達が見ている大きな部屋が二つぐらいで、確かマサチューセッツ工科大学で実験を成功させて、私達がこういう風に話せているわけです。この摩訶不思議に思うことを、私の先生は「君、それは簡単に出来ることだよ」と言っているわけです。というのは深い深い修行をして全て観ているから。ま、余談になってしまっ。この話だけでも頭がクラクラすると思いますけど。

それで、**観世音菩薩。化作三禪初梵王。化人間故。沒梵殿宮。下生王宮。大徳龍身。説示天理五行氣變作吉凶法。地沒還天。作春天主＝大ブラフマ王を使い、地水火風空を使い、吉凶を創造して、その後、天界に戻り、春を作ると。雨が降れば生命が発生するこの大地を作った。**

この後、観音様が第一の初めの禪定で次のブラフマ王を、ブラフマというのは色界。欲界は私達の第六天のあるこの世界で。その上は三十三ブラフマ、本当にその世界があります。その上は無色界。生命体がガス体ようになって、その一生は、この大宇宙が一瞬にして発生消滅発生消滅。そういう風に観えます。実際にそういう修行もしません。ですから、欲界色界無色界を体感して初めてこの仕組みを説明出来るわけなのです。こういう体験無くしてこれ(この経典)を読めば、頭がカンカンクラクラするという(笑)。確かにその通り。

そして次の王、下生王宮**德牛火頭**＝**德牛火頭身**を宮殿に住ませ。これがまた面白い。何故かと言ったら、エジプトの話に戻りますが、エジプトのピラミッドの近くに、とても深い所に、確か重さ百トンか二百トンの石の棺桶を作って。非常に狭い所。現代の技術では出来ない。そういう重い物を、その地下に持って行くということは。絶対に出来ない。スーパーシビリイゼイション＝超文明なわけです。

実際に、このピラミッドは死んだ石の塊と皆さん思っているけれども、とんでもない話で。今でも作動しています。今の世の中を動かしているのは、天界の力もありますけども、今のこの世は AI。昔に作られた AI が作動している。何故かと言ったら、南極の地下、そこにナチスドイツが千か二千の潜水艦を作って、帝国を作りました。その後、南米からアメリカに入り。今のウクライナはナチスに完全に征服されて、戦争を起こしていますけれど。

私はウクライナの戦争は終息すると思っています。何故かと言ったら、カナダで私の生徒はウクライナ人とロシア人がほとんどで。私が話した事によって「私達の考えは変わりました。」と。変わったという事は、この方たちは大学の教授、学者、お医者さん、超トップなのです。お医者さんも脳外科、心臓外科、普通の医者ではないのです。それだけ頭が良いわけなのです。でもマルクスレーニン主義によって宗教というものを徹底的に抑えつけられたものだから、魔によってそうなったわけです。下魔。

G20 首脳が12のステップで平和にしようじゃないかと。ところが G7。147ヶ国が戦争と国連 (UN) で言って、大体40ヶ国が「いや、これはおかしい」と。40ヶ国だけれど、世界の人口の50%はこの戦争に反対している。ゼレンスキー大統領も「直接、中国の習近平主席と話がしたい。」と。ま、そう簡単にはいかない。

というのは、私が数年間に渡り、事細かに私の考えをこのウクライナ人とロシア人に話したわけです。そういう影響もあると思います。特に私がアフガニスタンに行って、そのこの大学の学生、軍隊、それから政府の方に私の考えを話しました。そこで、その後、アメリカが撤退して行きました。また、アフリカのエチオピアに行った時も、そこで宗教家と話して、「内戦は止めなさい。」と。そういうことで、今は、内戦は収まりました。

私が動くのは天界の動きによって動かされて。仏法を護る人を深く護っているからです。私が、この 10 年エクアドルに来て、ただ住んでいるだけで南米の様子も相当深く変わりました。国の動きを観たら。ま、そういうことで、次に進みます。

牛の話でしたね。インドでも牛は神といって非常に尊敬しているわけです。というのはその時の牛は宇宙人が創ったのか神が創ったのか分からないけれど、非常に有名なインドの神様、シバ。シバは他の宇宙から来たと言っている。これはインドの人の話。インドの経典にそう書いてある。シバロッカ。ロッカというのは、星、国。その方向から来た。だから、その昔、大宇宙船があったと。三つの空飛ぶ天体が大爆発を起こして、崩壊したと。宇宙船はビマナと言います。経典にそう書いている。そこで、有名なラーマ・ヤーナの壮大な話。それは心の妬み、ジェラシーが原因なのです。トロイ戦争も一緒。あれも空想世界ではないと言われている。ま、そういうことで。

この世は密接に因縁に依って繋がっている。オッペンハイマーはアリゾナで原爆を成功させたというけれど。広島と長崎、グアムから広島に向かって原爆を落としたのだけれど、原爆が完成したのは 1945 年7月 10 日。オッペンハイマーが「これから人類は滅びるだろう」みたいなこと言っていたけど。そこから 8 月6日に落としたわけです。アリ

ゾナの砂漠から、飛行機で行くわけない。トラックか列車で運んで、それから船でグアム島へ行って、そこから飛び出して8月6日。

3, 6. 9というのは宇宙的な数字になっているわけです。宇宙にはゼロがない。ゼロという数字はない。前には法話で話したように。そして、最初の原爆実験成功からたったの、実験もなく、一回だけの実験で、一ヶ月以内に落とされたわけです。その時のB29の乗員は3人の上官と3人の若い、兵隊でもないわけ。失敗したら死ぬから、飛び出してやったわけ。で、その後、長崎にも落とされた。時間的な問題を調べたら、この原爆はアメリカでは作ってない。ドイツで作ったはず。そういう情報を私は持っています。それも16個の原爆を持っていたと。有得ない話。という情報を日本の人は一切知らない。

ま、お経に絡めてこういう本当の事も言わなければ。何故こういう事になったかと言えば、1947年にロスウェルにUFOが落ちたと。有名な話。ところが実際は、1945年。原爆を落とされた時に、その爆破でアメリカのロスウェルに落ちたということになっています。

だから、私達はあれだこれだと本を読んで頭に詰め込んで生きていたら、大変な事になる。という風な下魔、魔が支配しているわけ。何故かと言ったら、欲天、私達のいるこの地上の世界、第一天界＝神が住む木とかそういう神木。最高の他化自在天。天魔破順という悪魔が王様になっている。何故かと言ったら、皆さんが成仏してもらったら困るわけです。只事じゃないわけ、インドラの網を破って仏道に突き進むという事は、非常に難しい。

ですから、私が発表するこのお経は、千年も誰も訳していない。この日本でも。京都大学にありますよ。ちゃんと。あるというだけ。ははは(笑)。国の財産を使っているのですよ。「これは偽物だ。」と。ところが三百年前からインドのオーラ寺院にパーリ語で現物がちゃんとあるのです。日本の人が作れるわけがない。内容を読んでも、密教大乘テーラワーダ、修行しないでこのお経の内容は書けるわけがない。私のこの発表は、日本にとっても重大なものとなります。

進めます。地水火風、これはヴィパッサナーでしか観えない。法随観でしか観えない世界。空は即因縁の塊だから。これもヴィパッサナーでしか観えない。

没天宮殿＝宮殿に住ませ、**説示地利百薬醫毒助人間氣**＝地の力を利用して人間の病気を癒したと。

中国の最初の神様は、黄河文明ですね、泉水という町があります。ここから中国文明が出来たと。そこに行ってみました。その神様が葉っぱを腰に巻き付けたような姿で。その様相はバクダッドのバビロンの前の時代の神様と同じ様相なのです。そこにヤタガラス、三本足。日本でも有名だけど。熊野本宮かな？日本にもあるみたいだけど。これの源流は中国の泉水という所から来ています。

という風に実際に現場を周ってしか分からない情報です。そこで、神が人間の為に、薬を作って。このお経を読んだ時に、そういう事がちらほらちらほらと出てくるわけです。

下生王宮徳牛火頭身＝徳牛火頭身を人間界に送って、その後、**地没還天**。**作夏天主**＝死後天界に戻って、夏を創造する主になりました。この時に地球を傾かせたという事。春夏秋冬、赤道では雨季と乾季があります。という風に一体ではなく。という世界を創ったと。

觀世音菩薩。化作帝釋＝帝釈天を人間に変化させて。土地が人間に良くなるように創ったと。そして、**説示人倫心法大道身法五倫**＝心と身体が健康になる方法を教えて、**地沒還天。作土用主**＝死後天界に戻り、大地を創る主になりましたと。だから、最初のほうの説、これだけでも莫大な情報が中にあるわけです。

是三王者成強三才。説人性德。依俗説法。示第一義。皆是觀音大悲應化故＝三王の優れた才能で、徳性（波羅蜜）の道を民に教え。私も失礼ながら、水源徳性と名乗らせてもらっています(笑)。つまり、波羅蜜の事です。徳の事を民に教える事が観音様の慈悲の表れであると。

此國觀音有縁。末法世中。我法流布。餘佛縁滅＝この国は末法の世界で、仏法を広めて仏縁を継ぎ、観音様のお力で末永く民が恩恵を受ける為に三王出現させました。

とお釈迦様がお話しましたと。それで、観音様がこの理想の大仏教界を創ったのですよと。そして観音様はいつも阿弥陀様を頭の上に乗せている。

そして、祇園精舎(サラバーティ)でお釈迦様がアジタ比丘に授記を与える時に、サラバーティには天界から地上から沢山のブッダが、「(顕劫第一の)カクサンダーブッダ！カクサンダーブッダ！」と。大きい声が町中に響いたみたいです。阿弥陀様とカクサンダーブッダは一体で。弥勒仏も同じ。又、弥勒仏も大変な方で。私達はあまり聞かないけれど。繋がりがあります。



序品第一 ③

爾時世尊。從座而起。為三王及大眾等。亦行東方萬里海上。海中有國。名大日發。東西南北。海中有國。是眷屬國。世尊至於此國海邊。告大眾言。往昔劫初。觀世音菩薩。化作色界第十梵王。告初梵王。汝下空中。欲界天界。及下造地造。觀世音菩薩。化初梵王。奉其四禪大梵王。勅王及妃。供下下空中。次第造天下。造大地。最後造斯國。及眷屬海中國山河草木。有一天女。名妙辨財。是亦觀世音菩薩無量劫來以女像。作大福田。來為王女。即成日輪及月光輪。主四天下。眷屬無量。住此國中。或主或伴。是故其國觀音有緣。末法世中。我法流布。餘佛緣滅。唯存觀音。化益永世。說是語已。天女出現。頂禮佛足。而白佛言。世尊如今佛說如是。

『お釈迦様は三王と民衆の為に、東にある遠い数千km離れた場所の海に囲まれた大日發国とその支配国の海辺で、大民衆に観音様（觀世音菩薩）のお話をしました。昔々の久遠の時に観音は、色天界で十の大ブラマ王達を創造して 最初の大ブラマ王に欲界天界と地上を創造させました。』

大日發国、日の上がる国、日の元の国、これは日本か？その昔、殷の国、今から3千年前、その国の王は日の元の国と呼ばれていた。その時その国の言葉が、遠く離れた、台湾。台湾は昔、大沖繩と呼ばれていた。今の沖繩はその周辺国なわけ。だから、台湾では非常に仏教を護り立派にやっています。見て来ました。これも意味があります。後で出て来るのだけれど。

『そういう風に、この欲界を作り、四名の禪大梵王を授け、其々に妃を授けて次々と天界の下に天界と造っていったと。六天界ね。第一、第二、第三・・・第六天界が他化自在天。そしてまた欲界天の下に大地を造り、最後にこの国と家臣国を造りそこに、山河草木の園をも造りましたと。そこから色々な植物とか、色々な物を造ったと。其処には妙辨財天女が居まして、その姿は、観音（觀世音）菩薩の女の姿で無量劫來変わりません。』

だから、さっき言ったように、実は、男子＝王子様だったけれど、ある時から女性の体になったわけです。そのアバターが妙辨財天女ということで。実は居ります。この世では、人間界では見られない。想像を絶する美しさ。まあまあどんな言葉でも表すことの出来ない天女様です。

『「この国はとても観音と縁が有り、末法悪世でも私の法を広めるので仏縁が滅失しないのです。只々観音に依存すれば、末永く副益が続きます。」とお釈迦様のお話が終えた時に、天女が現れて礼拝しました。

この様に、お釈迦様は天女と沢山の衆生済度の為に海に囲まれた東にある国に向かい、氣質が只々働くのみの民衆に、正法を伝える難しい事を成して、仏縁を作りました。』

奈良の大仏ね。毘盧遮那仏。今でも出来ない。世界的に誰も造れない。鎌倉時代。その時代、コップ一杯の銅を作るのは相当な事で。大変なお金なわけで

す。それをどういう風にしてあれだけの巨大な銅を使って造ったのか？その手法はその当時の人間には出来ない。奇跡なのですね、あれは。今でも存在している。

ですから台湾と日本は密接に繋がっている。今、中国が台湾を攻めると。アメリカが絡んできて。これは止めるはず。出来ないようになっている。だから、安心して。



序品第一 ④

爾時世尊。為諸大眾。還至本處靈鷲山頂。敷座而坐。告諸大眾。我不久當般涅槃。諸大眾意有欲問法。自恣為問。時諸大眾。默然而坐。一切無聲。

『そしてお釈迦様は靈鷲山頂(ラジギール、インド)の竹林精舎に戻り、自分の座に座って、大集会の方々に向かって、私はもう直ぐに涅槃へ入るので皆さん何かお話し又は質問がありますか？座っている方々は 一切無言のまま。』

爾時世尊。非現神而示妙相。『成就妙大方廣佛心真如蓮華』。成就五百□□劫光前受用法身。成就佛佛能盡究竟諸法實相。成就華嚴阿含方等般若一實及多寶佛。『成法妙法蓮華證明真如大願』。成就過去無量劫前入滅不滅。成就寶塔。是法界塔。常寂光土。成就分座。是即理智自他法身。如是成就二躬世尊牟尼如來。面座靈鷲華藏世界。多寶如來。已還寶成就寂光世界二土融通。成就一土。是即開見凡夫心中。元有佛心。凡夫成佛。至大妙法。是即欲以此妙法藏。而付後師摩訶迦葉。所由相也。爾時世尊不起法華妙道法座。

『お釈迦様の様子は、将に荘嚴な大神、全ての佛の心の蓮、五百(無・量)劫よりの光の法身、佛だけが持つ無上の全ての法の姿、華嚴阿含方等般若及多寶佛の姿、妙法蓮華證明真如大願を成し遂げた姿。』

これだけで、想像を絶しますけれど。実は、皆さんの心の中でこの姿を観る事が出来るのです。という風に、一人一人の命は本当に大切です。全世界で魔が如何にして人類を滅ぼすかと。その中で只、諸悪莫作衆善奉行される方が生き残れるようになっている。もし、これを外した場合には、必ず、あまり良い事が起こらない。因果関係でそうなっています。

『多寶如來の寂光世界と釈迦如來の世界が共通世界の相が人々の心に現れて、人は元々佛心があるので佛になる欲以此妙法藏と言う大妙法を摩訶迦葉伝える理由なりと、世尊は法華妙道法座に座られて居りました。』

この法華妙道、実は皆さんが法華妙道を持っています。この教えは《声聞》《縁覺》《菩薩》《三乘》、小乘大乘一乘。一番優れた教えがこの一乗の教え。比丘も在家もなしと。そうおっしゃられています。

拈華品第二①

拈華品第二

爾時娑婆世界主大梵王（大梵天王或大梵天・梵語：Mahā-brahmā(-deva)・娑婆世界主・大宇宙の主）名曰方廣。『以三千大千世界成就之根。妙法蓮金光明大婆羅華』。捧之上佛。退以作禮。而白佛言。世尊今佛。已成正覺五十年來種種說法。種種教示。化度一切機類眾生。若有未說最上大法。為我及末世行菩薩人。欲行佛道凡夫眾生。布演宣說。作是言已。捨身成座。莊嚴天衣。令坐如來。

『この時に娑婆世界主大梵王方廣が莊嚴天衣をまとい、三千大千世界成就之源の妙法蓮金光明大婆羅華を捧げて礼をして、世尊は佛になり正覺五十年來一切機類衆生に様々な説法と教をされました。未だに説かれて無い最上の大法を、我及末世行菩薩人と欲行佛道凡夫衆生に宜しく説かれて頂きたいと言いました。お釈迦様は、それでは座ってくださいと言いました。』

三千大千世界成就之源の妙法蓮金光明大婆羅華＝これは皆さんの心の中にちゃんとあります、何故かと言ったら、この体は毘盧遮那仏と一体化している。毘盧遮那仏は全ての仏の根源。何故私がそう言えるのか？と。というのはヴィパッサナーで法随観をやる時に、そういう現象を見せてくれるわけです。法随観で行をするというのは、実はなかなか難しい。

それで、一番簡単な、六祖大師の一心を觀ると、同じ事。そっちの方法で皆さんに教えたわけです。

爾時如來。坐此寶座。受此蓮華。『無説無言。但拈蓮華』。入大會中。八萬四千人天時大眾。皆止默然。於時長老摩訶迦葉。見佛拈華示眾佛事。即今廓然。『破顔微笑』。佛即告言是也。『我有正法眼藏涅槃妙心。實相無相微妙法門。不立文字。教外別傳。總持任持。凡夫成佛。第一義諦。今方付屬摩訶迦葉』。言已默然。爾時尊者摩訶迦葉。即從座起。頂禮佛足。而白佛言。世尊妙哉。我念過去無量劫事。於燃燈佛。布說法處。發菩提心。從佛修行。亦復世尊布說法。於說法中。得漏盡智。成阿羅漢。亦復聞説諸法實相。入菩薩道。不動先果成大乘道。得近如來一切種智。如是妙智。從何處來。『皆從凡夫久遠心來。其久遠心。等諸佛心。是為法身。是名成佛。得見是心』。非在言教理誨理解文字之中。但在以心示中。不假三昧。不期感果。因緣熟時。凡夫即見是故佛道。傳於凡夫人中不絕。若無此法。『唯有感果賢聖得道』。而無凡夫比丘比丘尼優婆塞優婆夷得佛道者。若然於末法濁惡世中。證果人者。千萬人中。無有一人無證果故。佛道絕傳。唯有名字。無有道象。『有此法故。傳佛道象。不結於末世』。佛言善哉。摩訶迦葉。如汝所言。『七佛世尊。授法象然』。七佛弟子。傳法象爾。我滅度後。以大法藏。今付於汝。能持傳弘通正法。尋嗣心道。令不斷絕。

『この時にお釈迦様は寶座にお座りなって、世にも不思議な光り輝く絶妙な色の蓮華を受け取り持って、只々無言でおりました『無説無言。但拈蓮華』。この時に八萬四千の人と天の大衆は皆黙しておりましたが、長老摩訶迦葉だけは三千大世界の源の絶妙な蓮華に見とれて嬉しそうにして居ました『破顔微笑』。その時に釈尊は摩訶迦葉に、釈尊は正法眼藏涅槃妙心の實相無相微妙法門を心心伝印して、』

これはね、心から心に移してもらえないわけなのです。言葉じゃなく、心と心でしかこの妙法は伝わらないようになっている。只、その時に皆さんの心の受け皿が出来ているか出来ていないかだけで。だから長い旅ですけれど、諸悪莫作衆善奉行で只進んで行けば必ずや到達します。

正法眼藏の事を説明しましたが、正法眼藏というのは結局、ヴィパッサナーの事で。このヴィパッサナーで一切を観る事が出来ます。

『この法門は言葉と文字で伝え教えることが出来ない、凡夫が佛になる全てを含む最上の智慧を授け『我有正法眼藏涅槃妙心。實相無相微妙法門。不立文字。教外別傳。總持任持。凡夫成佛。第一義諦。今方付屬摩訶迦葉』と告げて、また黙しました。』

つまり、文字でも伝えられない。これは教外別傳。一般の人には伝える事が出来ない教えだけど、摩訶迦葉様だけには伝えたわけです。この後、摩訶迦葉様は必ずや仏に成ります。今、ヒマラヤの山の中で座っています。弥勒仏が出るまで。地上で仏に成るまで、そこに座って。弥勒仏がヒマラヤを訪ねて来ます。その時の弥勒仏の身長はジャイアンツ。80メートルくらいあるのかな。だから、摩訶迦葉様の衣が小指に乗るかどうか。

で、そこに甘露の水をかけて蘇生させて、摩訶迦葉様が弥勒の国で説法をします。何故説法をしたか？十二因縁の事。このDNAを、お釈迦様が持っている同じDNAを、時空を超えてそこに移したわけです。つまり、心と体が一体化してしか伝わらない。という毘盧遮那仏の大世界なのです。そこで十善戒してくださいと。又は五戒をしたら弥勒の国に生まれますか？と。そういう因縁を作ることが出来るわけです。そして、

『その時に尊者摩訶迦葉は座起して頂禮佛足して、世尊は絶妙な判断をします。私は過去無量劫において燃燈佛の説法聴き発菩提心を起こして修行し、世尊の説法を世に広めました。』

その時、お釈迦様は山に籠って修行していた在家なのです。その時の名前はスマナ。菩薩ですね。山で行をして、ディーパンカラブダ(燃燈仏)が出たということで、もう心が騒いで「絶対に見に行く！」と、山から下りてディーパンカラ仏を拝みに行ったわけです。その時、雨が降って道が濡れて水たまりがあるから、「ディーパンカラ仏を泥で濡らしてはいけない」という事で、自分の長い髪を広げて、その上を渡したわけです。その時に、ディーパンカラ仏が「お前は、(今の現世で)釈迦牟尼仏に成る」と授記を与えたわけ。それからずーっと24代。次から次へ仏から授記を受けている。一回だけで

はない。そういう風に一回授記を受けたからなっただけではない。

摩訶迦葉尊者はその時すでに阿羅漢になっているわけです。ディーパンカラの傍で行を進めていたのです。お釈迦様は普通の在家でスマナという方で、その名前（ディーパンカラ）を聞いただけでところが騒いで「仏に会いたい」というその一心で山から下りた時に、この一心。「お前は仏に成る」と。飛び越したわけ。

で、釈迦牟尼仏の時代になって、摩訶迦葉尊者も出て来て、授記を与えたけども、「まだまだ、これから修行が必要だよ」と。だから、悟りを開いて涅槃に入って初めて、そこから修行が始まるのであって、悪世の汚れた世界から抜け出して、浄土の世界ですーっと行くわけなのです。何故かと言ったら、現土即浄土という。汚れた世界が即浄土という。という絶妙な世界で生きていくわけです。

『そのおかげで余すことなく般若を体感して阿羅漢果を得て、説諸法實相を聞き反復した事により、菩薩の道に入り、不動な心で大乘道事に入り、とても早く如來一切種智と如是妙智を得ました。いったい之はどこより発生したのかと。皆凡夫は久遠の昔からの心が有り、その心が佛心であり法身で有る事により成仏すると解かりました。』

つまり、般若心経の「諸法空相不生不滅不垢不淨不増不減」「空中無識無受想行識」このことなのです。凡夫は久遠の昔からの心があり、不生不滅。不垢不淨不増。ここが絶妙な教えなのです。それで皆さんが、一般の衆生はいつか仏になると。それで般若心経が非常に大切になるわけ。ところが、これは体感しなければ解らない。ただ心を深く観る事によって解りますけども、ところが、色即是空空即是色受想行識これを観るにはどうしても法随観、ヴィパッサナーでしか観えない。これが大問題で。これを外してやる場合には、ま、一心を只観て、衆善奉行で進めば間違いない。

まさにこの通り。私も旅をして、そしてこの因縁によって四界分別の道、法随観に出会いました。この四界分別の事を言われたのは、私が若い時に、過去の因縁でダライ・ラマ法王が説法できるように取り計らったからです。その言葉が耳に残って、カンボジアで「こういう教えがある」と。強烈にショックを受けて、そしてミャンマーに行ったわけです。そこで法随観を得た。だから、因縁が熟して、これしかないわけです。

『この教えは凡夫の人中で絶えることなく無上の法です。ただ有るのは果賢聖（預流果、一來果、不還果、阿羅漢果）の道を体感するのみ『唯有感果賢聖得道』。凡夫比丘比丘尼優婆塞優婆夷得佛道者無き末法濁惡世の中で證果する人は人千萬人中一人足りともいません、仏道の伝えは途絶えて有るのは名字、仏像も仏画も無くなります。』

先先の時代の事。私達にはまだスリランカ、カンボジア、タイ、ミャンマーに行けば仏像がいっぱいあり、日本も仏像、韓国もそう。中国も台湾も。だから、私達はまだ成果を得る事が出来ると。

『摩訶迦葉よ、汝の所言はとても素晴らしい。過去七佛の教えも法と像画を伝えることです。『七佛世尊。授法象然』。過去七佛の弟子も法象画を伝えることであり、私が永久涅槃に入った後も、大法藏を汝に授けます。能く正法を傳へ広めて、心を見て道を歩み大法が斷絶する事の無いように。』

これが、パオ森林僧院で教える法の事です。ただアビダンマだけで考えた場合には非常に難しい。私はアビダンマも何も知らずに、只、言われる通り、心を観たからそのまま行きました。六祖大師の「心を観よ」と。だからテーラワーダも大乘も一体化しているわけです。何故一体化と言ったら、元々達磨大師様がインドから来られて。その達磨大師の跡を追って、インドのチェンナイを訪ね、少林寺の岩山に登って、山の洞窟に座った時、涙が出ました。

これが正法の事で、過去七仏も同じ事をしていると。まあ、過去七仏の間、大宇宙が何回も破壊する時空です、でもまた戻る。ちょうど、秋になれば種が落ちて、冬になれば枯れて、でも春になれば、また同じ花が咲くと。このことなのです。



拈華品第二②

爾時世尊從起梵王（大梵天王或大梵天・梵語：Mahā-brahmā(-deva)・娑婆世界主・大宇宙の主）以身為座妙嚴天座。著於本座。告大梵王。汝於過去無量中。修菩薩道。住高地位。能問是法。於末法濁惡世中。相續諸佛大道心法。令不斷絕。咸是所以依汝力也。尚有所以思。悉恣問之。如來為汝演說正法。大梵王言。善哉世尊聽問如是。我當問之。如來先經。為未說之。為未示之。為既示之。佛告大梵王言。我先已說。為既說之。為舍利弗謂。不可以言宣是也。時舍利弗。面會此法。即得當成華光佛記。亦復龍女。以一寶珠。無句上之。

『この時に、世尊は梵王以の化身である妙嚴天座より立ち上がり、その席に向かって、大梵王よ、汝は過去無量中において菩薩道の修行をしたために、高地位を獲得したのです。この法門を良く心の中で観察してください。』

これが大切な所で、つまり私達はこうして生活しています、で、心が騒いだり、気持ちが良い、また気持ちが悪い。そういう苛立ちと。そういう心が発生した所を観るということ。考えるのではなく、心を観る。あれだからこう、これだからこうではなく、只、私は、私の心をじっと観ています。

『末法濁惡世中において諸佛大道心法を相續して絶える事の無い様に、この法門は汝努力で獲得したことで有る事をよくよく思い、又問いなさいとただしい法の道を示しました。』

つまり、心が苛立つ、それから、苛立つ。「ほんとに面白くない！」と。その時に私は自分の心をじっと観ます。ずーっと。一体これはどこから発生しているのか？と。確かに相手が悪い。無理難題。でも、そういう無理難題の因縁の中で生きているのか？とか。じっと心を只々観ています。このことが大切で。「相手が悪い。ケチだ。ドケチ。」そういう風に思うのだけれど、逆に「自分は何なのか？」と。という風に自分の心の反応を観ます。

『大梵王は世尊様の良き教えを受け止めて問いただします、と答えました。今の教えは、聞いた事も見たこともなく、誰からもこの様な教えは有りませんでした。この法門は私が舍利子に示した教えで、華光佛のおしえです。舍利子は直ぐに理解しました。又龍女と一寶珠の話も記録に在りません。』

これは有名な法華経の龍女が仏に成るという。この事の話。記録にもない。お釈迦様の教えでもない。この教えは。

龍女。以一寶珠。無句上之。如來又也速受寶珠。無句受之。龍女又依此佛心道。即得成佛。亦復是也。大梵王言。若如是者。今日如來。以此一法。為最真實。佛言如是。如汝所言。舍利弗者。過去劫來。不離於我。今日亦然。我俱不久入於涅槃。不留我後。龍女已得他方成佛。非我弟子。其法不傳。皆如無耳。今日有獨摩訶迦葉。傳真道象。我滅度後。至於末法五濁惡世後五百歲。不絕佛道。唯在迦葉。獨付傳中。是故名曰唯是真實。大梵王言。如來先說後五百歲。其五百歲是何時也。佛言。夫其五百歲者。我滅度後。佛法住世。正法八百年。像法千二百。末法五千五百年。已去正法像法末法。後所有年。五百歲是也。大梵王言。正法像法末法。及後五百歲者。是謂何世何國然也。佛言。其世是人間世。而非天世及龍世也。亦復其國。是閻浮中。隨機諸國。非必一國。所以者何。天世龍世。是聖者世。而無年限。但有人世。上清下濁。上盛下衰。是故有限。亦復國國。時改機變。或有天護。或有聖護。或無天護。或無聖護。或有神護。或有仙護。或無神護。或無仙護。人機無量。國隨人機。是故非必一國然也。梵王白言。世尊如是。如佛所說。國機不同。或有有緣。或有無緣。或有護安。或有護難。茲興彼廢。茲廢彼興。佛法東漸後五百歲。留法不絕。利益眾生。

『龍女は一寶珠を無言で献上し、如來も無言で速やかに一寶珠を受け取りました。龍女も同じくひたすらに佛心の道を歩いたので、如來である釈尊が受け取った時に、仏果を得ました。』

ま、そういう事で、結局ひたすらに仏心の道。仏即心、それぞれ衆生の心の事。「心性即仏性」仏心一体化。だからつまり、心を観て歩いて来たわけですね。それでこの三千大世界の宝珠を受け取り、仏に捧げ、捧げた瞬間に仏果を得たわけ。そして、

『大梵王は釈尊に、この方は今言われた法門で本当に佛に成られたのですかと、聞きました。お釈迦様は、汝が聴く通りであると答え、舍利子もまた過去の劫、以来私の傍いでこの法門の道を聞いた時より、菩薩道を歩む事に成りました。我が涅槃に入った後は、龍女がこの法門で他の世界で成佛しますが、私の弟子でもなくまた伝えたことも有りません。』

この龍女。龍身ですね。龍の体。「私の弟子ではなく、また伝えたこともない」のですけれども、只この道を歩むことによって仏果を得たわけです。

『この法門は誰とて聞くととも無い極秘法で、今日訶迦葉一人だけが心で受け取りました。』

と。つまり、皆さんもこういう法を受け取る力があるわけなのです。一中一切、一切一中。一つの心は全ての心。全ての心は一心にありで。だから、龍女が仏果を得たという事は、皆さんもそうなる事が出来るという事です。この法門は本当の極秘。今、皆さんがお釈迦様の極秘の法門を聞かれたわけです。

『像画道を真に伝承し続ければ、私が涅槃に入った後でも、末法の五濁悪世（世界の成立から破滅に至るまでの成住壊空の四劫の住劫の滅劫に起こる、五つの汚れに満ちた悪い世の劫濁、見濁、煩惱濁、衆生濁、命濁の世）時の後五百歳でも佛道断絶しません。』

ですから、SさんとIさんに頼んで仏像を彫ってもらったわけなのですから、素晴らしい出来合いで、心から感謝しています。

『只迦葉一人だけに、今の真実を心伝しました。』

つまり、心伝という事は、本当に実体、皆さんが物を食べても、走っても、仕事をして、心と体が一体化して、その現象が起きるけども、心と心で、心々伝印でやっても同じ現象が起きるわけなのです。このことを心々伝印。

『大梵王はその後五百歳とは、何時の五百歳ですかと尋ねました。それは私が涅槃に入った後の佛法が世に定着した、正法八百年、像法千二百、末法五千五百年の後の五百歳です。』

今丁度、お釈迦様が涅槃に入られて、二千五百～二千六百年ですから、後五千年後の五百歳の事で、世は続くという事を言っています。

『大梵王は、それでは正法像法末法の後の五百歳はいつの世の何の国ですか、と問いました。それは人間の世界で天の世でも龍の世でも在りません。その国は閻浮（閻浮提えんぶだい、サンスクリット語: जम्बुद्वीप、Jambudvīpa 人間が住む大陸）の中の国々で一国だけでないのです。そして天界龍界聖者界には年が無く、人世界にだけ年齢があります。そして清より濁に至り、盛えより衰に至ります。』

何故こうなるのかと言え、色即是空空即是色のルーパですね。ルーパは空より発生して、人間の体のように大人になります。そして平行して行って、死ぬ時に、ピュッと落ちると。つまり、全てはそういう仕組みの中で生きています。木も成長して、大きくなり、そしてその内老化して、スッと倒れると。同じ現象。ま、その事を言っています。

ですから、今のアメリカの一強体制、ウナポールか、一国で全てを決定すると。こうであったけど、今、最早衰退に向かっていると。で、新しい体制が出来始めるという事です。

『それで国々には限りがあり、変わるときに時に天護、聖護又は無天護、無聖護と一定では無いのです。同じ様に時によって神護、仙護或いは無神護、無仙護。人々や機械類は数知れず、それで一国だけでないのです。』

時によって、神の護り、千人の護り、あるいは無神の護り、無仙の護り、人々や機械類は数知れず、機械類というのはコンピューター、車、色々な機械。これはどういうことかと。人間だけに心があるのでは？と。ところがなんと、お化け屋敷とか幽霊屋敷とか山

の神とか、池の大蛇とか、いろいろな物に変なモノが憑り付いていると、このこと。人間界が滅びた後は、全て機械の世界になると。

私がお寺に授かっている時、スリーパーダ(スリランカの聖山)に登った時、日蓮宗の方だったと思う、その時お寺を授かっている(日本山妙法寺)、そのお坊さんが「窓を見ていたら、UFOが降りた」と。降りたその場所だけが未だに緑だと。Crop circle(ミステリーサークル)も同じで、いろんな形を示して、そこが青々として、他の場所と全く違うわけです。何かのエネルギーが入っているのでしょう。

私が、スリーパーダのUFOが降りた場所に降りて、私は禅をやっているから手を当ててそのバイブレーションを観る事が出来るわけです。そしたら、なんと、昆虫に近い機械類の世界、それが永遠に続くわけです。だから、私達はこうしてお話して、好きな物を食べて、それから自分の心の思いで生きる事が出来るけど、そこで触った時に、そのバイブレーションは一寸の間違ひも無く、規則通りに動いている世界。

私達は間違ひをするから正す事が出来るけど、間違ひもない型の世界だから。正しい事も間違ひも全くない世界だから、心が進化するわけがない。進化するとしても絶妙な時間帯で、腐り果てたり、大地が変わったりだとか。

結局、岩にも生命体があるわけなのです。ところが、私達みたいに自由に動けないから、非常に速度は遅い。想像を絶するくらい速度が遅い。ヒマラヤの高い山も、また海に戻ると。どれくらいの時空がかかるか。私達は高い山に登って降りて、その体験が出来るわけです。六千メートルの山は高いですよ～。一つ足を上げる度に、苦しいのです。

だから、お釈迦様が言いました。「私達は奇跡の中で生きている。」何故奇跡の中で生きているのかと言ったら、「二本の足がある。」と。ヒマラヤの五千メートルの山に、海の貝の化石がゴロゴロあるわけなのです。つまり、それは海の底だったという事。人間は海に行って貝をすぐ採れる。それから高い山に登って石コロも持って来られる。という奇跡の身体を持っているわけ。

『国々に色々な違いがあり、それで有縁、無縁、護安、護難が有り、栄えては滅びて、滅びては栄える。それで佛法が東に伝わった後の後五百年でも法が断絶せず。人々に福田を恵むのですね。』

何故かと言ったら、お釈迦様は本当の事を伝えているから。偽物の道具で物を作ろうと思っても、これはなかなか上手く行かないし。それから腐った木で家を建てようと思っても家はすぐ壊れる。本当の事というのは、壊れない永遠不滅のもので作るから、永遠に存在出来るわけです。それが仏法。だから、人に作ったものが永遠に残るから、それで良き事をした場合には、いつでも福田が起きると。

だから仏法では悪い事をしちゃ駄目ですよ。良い事をしてくださいと。そして必ずや良き事が誰にでも起こるような仕組みになっているけれど、天魔下魔はそうしたくない。人が苦しむのが彼らの商売だから。だから如何に人が苦しむかを日夜考えているわけ。

その垣根を壊すのが仏法で、ハイっとドアを開けて私達は自由になれるという事を教えてくださっているわけです。

『そのときに大梵天王は、世尊が世に出て以来四十餘年に成りました。その色々な説法はこれまでにない法門で在り、説法です。世間一切の人、天人の為の願いで金色千葉大婆羅華を仏へ献上して、自分の気持を表して 質問を終わり退席します。心を込めて参拝して自分の席に戻りました。』

心を込めて参拝、心を込めて敬意を証すと。これが本当の真心。だから真心で生きてくださいという。それだけで大梵天王にもなるわけです。



拈華品第二③

爾時世尊著坐其座。廓然拈華。時眾會中。百萬人天。及諸比丘。悉皆默然。時於會中。唯有尊者摩訶迦葉。即見其示。破顏微笑。從座而起。合掌正立。有氣無言。爾時佛告摩訶迦葉言。『吾有正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法。不立文字。教外別傳。有智無智。得因緣證』。今日付屬摩訶迦葉。摩訶迦葉。未來世中奉事諸佛。當得成佛。今日亦堪為世間師。佛告諸比丘。如來今者不久滅度。汝等比丘皆悉能依摩訶迦葉。入大乘門。修行佛道。告摩訶迦葉。無有餘法。唯一心性。佛。過去諸佛。現在諸佛。未來諸佛。已說今說當入而已。『一切諸佛。依一心性』。已成說佛道。現成佛道。當成佛道。一切眾生亦復如是。若謂餘法。尚有更一。諸佛成佛。眾生成佛。即外道說。非七佛說。非十方佛說。迦葉當知。汝所付屬。八萬藏經。是諸教者。是即乘一心器也。譬如世間牛車馬車。是為諸法乘之渡於道路器也。所有教經亦復如是。汝能奉持。

『その時に世尊はそのままで座ってその一華をかざして居りました。この大集會には天人、人と比丘達は皆な默然、尊者摩訶迦葉だけはその奥義を理解して笑みを浮かべて、席より立って 無言で居ました。この時佛は摩訶迦葉にこの様に話しました、汝に今日より【吾有正法眼藏涅槃妙心實相無相微妙法。不立文字。教外別傳。有智無智。得因緣證】の心と身体に付屬したのだ。』

この事は分かったようで分からないと思います。実は、死ぬ時に、ビブツというか、心です。心。仏心というか。ビブツとインドでは言うけれど。この心と身体。身体のルーパとそれから、男か女になる因縁のルーパを持って転生します。それで心と身体、男身か女身かは別として。この事が心身一体。つまりこれが永遠に続いて行くわけです。

『摩訶迦葉よ、未來の世の中で諸佛に奉事し成佛して、今日に値する世界の師になりなさい。佛は諸比丘に、これから不久涅槃に入るの、汝等比丘は皆な摩訶迦葉に心から頼りなさい。』

それで摩訶迦葉様が、仏教の今の第一祖。第二祖がアーナンダ様です。

『そして大乘門道に入り、佛道を修行してください。摩訶迦葉よ、この法門は余す事なく只その【一心性：心が一つの事柄だけに集中している状態になること：】によるもので、全ての佛、過去諸佛、現在諸佛、未來諸佛はこの法門によるものである。『一切諸佛。依一心性』。これが佛道、現成佛道、當成佛道であります。』

つまり、この事を六祖大師が「自分の心を観なさい」と。頓悟禅ですね。

『全ての衆生は、いっそうこの法門を余すことなく修行して諸々の佛に成佛してください。衆生が只修行なくしての成佛は、七佛の教えでは無く、総ての佛の教えでもありません。迦葉よ、この事を確りと知ってください。汝に付屬する、この法門は八萬四千の藏經であり、諸々の先生です。一心と言う牛車や馬車に乗る車と同じである。世間ではこの様な乗りもので、旅をしますが、諸々の法門も

同じであるので、汝は良く受け継ぎ保持してくださいと、述べました。』

つまり、一心という、心の乗り物、それをずっと観る事を続けてくださいということです。

爾時摩訶迦葉。歡喜踊躍。為佛作禮。而白佛言。世尊此法實難遭者。誠是直道。誠是妙道。我昔遇佛。出家修行。偏厭生死。唯求涅槃。但修無為。不求是法。但了空理。不知是法。難行苦行。多年作勞。得阿羅漢。思之誠難。今日如來。最上妙示。『唯剎那事。非年非劫。非難妙易。令我成佛』。無有疑惑。雖非實至劫數成時。三十二相。八十種好。紫磨金色。『妙覺成佛。實知法身。是心是佛。三世諸佛。一軀妙體』。今思已前。於多年中。難行苦行。是勞無功。亦多年中。求空無為。皆虛假法。更非實法。今日見得是真空法。其相正空。而性不空。其體無為。而性圓滿。一切眾生唯依是法。當得成佛。佛告摩訶迦葉言。如是如是。如汝所說。汝於未來。當得成佛。如我今日是法。爾時世尊。說此言已。即從座起。還坐本座。無語無動。眾會亦復寂莫無聲。皆含妙氣。

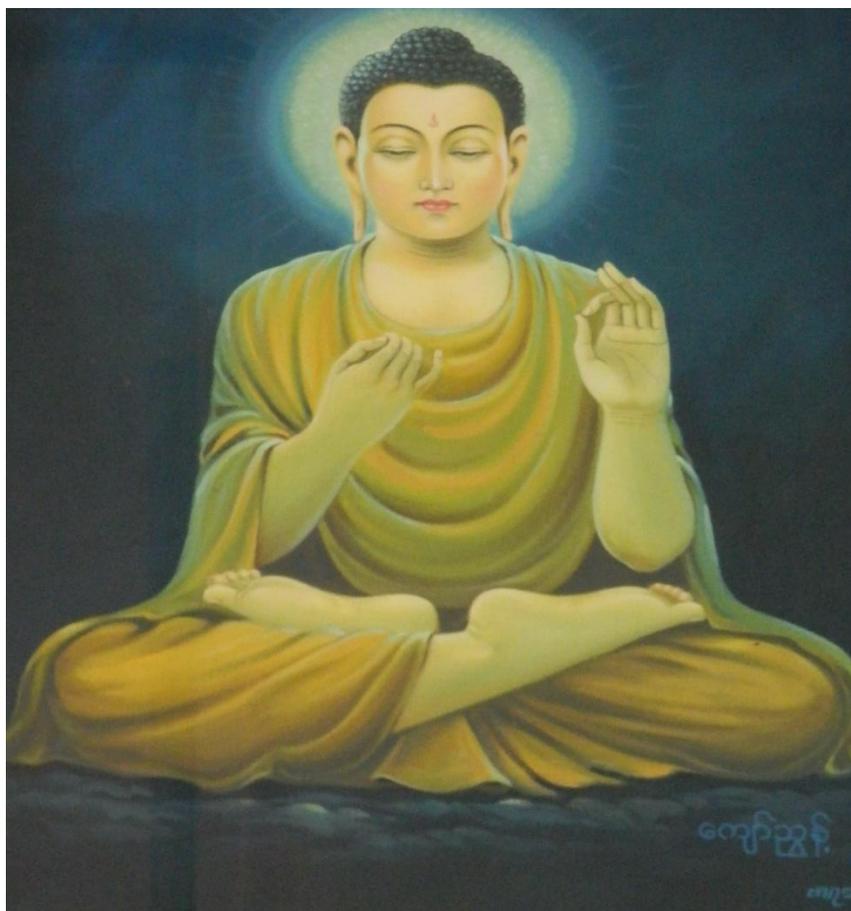
『この時に摩訶迦葉は歡喜の喜びで、お釈迦様に三拝し、この様に話しました。世尊様、此の法門に出会うのは甚だしく難しく、誠に直道であり、妙道です。私はその昔に佛に出会い、出家修行したのは、生死が嫌で。ただ涅槃をもとめての修行は、何にもならない事でした。この法門を求め知らずに、空理の難行苦行を多年に渡り苦勞して阿羅漢果を得ましたが、この法を思いつくのは誠に難しい事です。今日如來様は最上妙法を一瞬して授けて下さいました。年功の難妙易を超えて私に佛になる様にと言われました。『唯剎那事。非年非劫。非難妙易。令我成佛』。この事を無劫数の果の今にて、三十二相、八十種好、紫磨金色の身体になり、絶妙な悟りに成り、法身を確かに知り、心は佛で有り、三世諸佛と一に成った妙体である事が解りました。』

実は、この【紫磨金色の身体】、ちょっと分からないと思いますけど、実はお釈迦様が座れば、金色であるけども、その周りが群青色の紫色が発生します。それは体感して観ない限りは、想像出来ないけれど、そうなのです。そうとしか言えない。

【絶妙な悟りに成り】これはね、ただ聞いたら、体がそうなったからそうなったのか、そうではなく、三年ずっと座った事により、身体が変わって行きます。十年座れば、十年分変わるのでしょうね。百年座れば百年変わるかもわからない。

ずーっとまあ1～2年座ったり、1～2時間座ったりという時間しか持たなかったけれども、山に入って三年以上座りましたけども、身体が変わり、身体が変わる事により、受け取る絶妙な世界を観る事が出来ます。頭では絶対に観えない世界。他人からこの世界を見せてもらおうと思っても、絶対に有り得ない話。自分でしか体感出来ないから。

『今までの間、多年に渡り難行苦行した苦勞は無功で、この多年の中で空を求めた、のは無意味でした。これらは皆化法であり実法では有りません。今日は本当の空法その空性と不空性には独自性は無く欠ける事もない、まさに真円の様な相を正しく見せ戴き、一切の衆生はこの法門によってだけ佛に成りえることが解りました。世尊は、摩訶迦葉の言葉通りで有り、汝の説く様に、汝も未來において佛に成ります。これは私が今日示した、法門です。世尊が言い終えた後に席より、起ちあがって本座に戻り坐り無語無動。大集会また静寂無言で、大集会の精神と気分が大きく沸き上がりました。』



拈華品第二④

爾時大梵天王白佛言。世尊善哉。世尊能快說之。世尊滅度。後世眾生。云何入得。云何修行。願為我入入得修行精密法要。佛告大梵天王。天王諦聽。善思念說之。眾生機根。種種無量。或聽理入。或禪定入。或因緣入。或持示入。不一般也。『天王唯有信心。能入是最上道』。云何起信不依心性。他不成佛。所以者何。於心性外。無成佛路。如是了知。真實求者。能入是道。智慧如舍利弗。多聞如阿難陀。辨才如布婁那。解空如須菩提。持戒如優婆塞。神通如目犍連。天眼如阿那律。如是此輩。皆不成佛。所以者何。此輩皆得心性假用。未得心性真實體故。唯證性體。必滅佛道。如是了知。真實求者。能入是道。天王或有知見心性妙實體者。『知見之時。即體妙理。無放無離。行住坐臥。心身融一。見聞覺知。根性融一。如是修行。即行佛道。在家菩薩。出家菩薩。非異非別。唯以融一箇之道。我於即時。成佛道已。世間出世。修行無咎』。

『その時に大梵天王は、世尊様のお話は実に素晴らしく、理解しやすく、涅槃に行かれた後も衆生は如何に修行するべきかを、私の願いを叶えて事細かく説かれました。私は今のことを、しっかりと受け止めて修行道を歩みます。お釈迦様は大梵天王に、天王は善く思居ながらにして説くことを確りと聴いていました。衆生の性質は数えることが出来ない千差万別で、』

この事は私が、海龍王経でちょっと説きましたけども、身口意の口に依っての空に依って、数限りない形が出来るという事です。

『理論で、禪定に入り、因縁より入り、持ち味より入り、聞くと同じではない。天王は只信心だけに依り最も優れた聞き方です。「天王唯有信心。能入是最上道」。深く信仰しても、心性に依らなければ佛には成りません。』

心性即仏性。だから、心性が無ければ仏に成らない。

『心性に依らない者たちには、成佛の路はない事をよく知りなさい。そして、真実を求める人は私の説く道を歩んで下さい。智慧の舍利子、多聞の阿難陀、弁才の布婁那、解空の須菩提、持戒の優婆塞、神通如目犍連、天眼の阿那律達は皆佛に成る事は無い。この人達は皆、心性を誤用して未だに心性の真の實在の【知見: Seeing Knowing】に達して無いからです。ただ証拠だけでは、佛の道は必ずや途絶えます。真実を探究する方々は、よくこの事を知って、この道に入って下さい。天王や知見で心性妙を實在体験した人は、絶妙な真理からいつも離れることなく、行住坐臥でも心身が一体化で見聞覺知をして根本と心性が一つに成ります。これが修行で有り、仏道の行です。「知見之時。即體妙理。無放無離。行住坐臥。心身融一。見聞覺知。根性融一。如是修行。即行佛道。」在家菩薩も出家菩薩も違いはない、只この道を進む事が成佛の道で、世の中の迷いの罪悪感から離れて修行できます。』

爾時大梵天王。問迦葉言。世尊往昔。說種種教。其教理之。今日仁者。從佛所受心。云何有所差別。語梵王言。仁者莫問如是。此事若有世尊已前所說教理。差於今日所受心者。彼諸教者。即是邪說。若有世尊今日所受心。差於已前所說教理。是此心者。

『即是心。一切教之。此一心理。無有毛端所差別所』。若有學人。謂諸教理與此心理有所差別。是即外道天魔所說。非唯不知諸大乘經所說之理。亦不知我受一心理。若知心理。應知教理一理無差。但有所差諸教理者。以雖有益非真。今此知見教。唯是實無二。雖設有他教。其益皆小分。不謂他無益分。性說一端。如星光日為。

『この時に大梵天王は迦葉に聞きました。世尊はその昔より様々な教えを説きその教理と、今日貴方は佛より受心した教えの違いはあるのですか。仁者莫問如是。これらの事は世尊が前よりの教えで、今日の説法で違いがある教えであると教える先生は邪説の教えです。この教えは心で理解している方は、一切の教は【一心】の真理で、全くの違いが無いと分かります。『即是心。一切教之。此一心理。無有毛端所差別所』。學人で、諸教理上で心の真理に違いがある説を教え説くのは外道天魔の教えで、諸大乘經の所説理は無いです。私はその様な違いの教えを【一心】の真理に知りません。只私の知っている心理の教理に、真理の違いがない事です。しかし幾つかの教義の上で差があります。諸々の教えは有益ではないです。この【知見】の教えは正法で、他の教えは、少しの益でしか無いです。その教えは星の小さい光の様です。』



拈華品第二⑤

分光為星光 不謂星無光 小端如無益 四諦十二緣 五戒及十善 念佛往淨土

『苦集滅道と無明、行、識、名色、六処、触、受、愛、取、有、生、老死の十二因縁を知り、五戒及十善を実行して、淨土の佛を何時も心に思えば淨土に生まれます。』

具戒及坐禪 權大諸菩薩 皆是彼端小 此教如日光 他教如星光 眾星雖口天
不謂之白晝 日光出現時 夜明天成晝 他教雖有世 不謂佛法者 眾生正諸佛
穢土是淨土 生死自涅槃 三世永一世

『菩薩は皆この方法をします。小さくとも。これはまるで太陽のようで、他の教えは夜の星のように小さい。それは昼に光が出現したように、あとは夜空のような事で、この教え以外に衆生の正法はありません。』

この【生死自涅槃】、これはどういう事かと。つまり、自分の生死を觀た時に、生死を超える。つまり、涅槃の世界でずーっと生きていく、仏道を進んで行くという事です。

世法即佛法 有為實無為 如是知見教

『世法 [俗諦] と佛法 [真諦] は一体円融の不思議で、有る事と無い事は同じ。知見の教え (法隨觀・Dammanupassana: Seeing Knowing (Vipassana、觀禪) で心に映ります。)』

つまり、私達が生きているこの今の世界でいろいろな事がありますが、このいろいろな事は全て、本当の事に依って発生しているので、この世俗の考え方と仏法の真諦は、実は一体化していると。裏表一体化ということです。裏と表があると。

及其修行者 謂之佛法有 又謂我世有 佛說是語時 眾有百千人 皆了無上道

『只、この修行者には仏法が有り、私の世に有る。仏説この時、衆生百千人皆が無上道に入った。』

この一乘道に入ったという事。

言教令悟心性理。令成佛道傳心理者。以心傳之。得心性理。令成佛道教者。漸入心者。頓入心者。遲速不同。理則一同。譬如東國人指日輪。謂此日輪從我東天往彼西天。西國人。亦指日輪。謂此日輪從彼東天來我西天等。雖異彼此往來之言。不差謂日。日輪之言。與語日東西理者不差。如來教示亦復如是。教傳心傳。示相不同。於理一同。

『自分の心の仕組みを学び、佛道を伝える心理（法随観）者に成り、この心を伝える心性理を得て、佛道の教者に成りなさい。徐々に解る人や直ぐに解る人と遅速が有りますが、理は同じです。東國の人が日を指差して、日は東より西に向います。西國の人も指差して、日は東より西に来るといいます。同じ日であり、同じく日が動くことであり、日往來の言葉の違いだけで同じ日であり、理解も同じです。如來の教示も同じ教伝心伝で、相が違ってても理は同一です。』

永遠不滅の教えがこの真諦であり、その中で私達は生きています。

白言世尊。此見性道。應唯比丘行此道哉。亦諸在家可普行哉。佛言。天王心性之道。出家在家。天龍鬼神。皆悉具足。何可限之比丘耳。唯有在家出家行相。於相異非一。其出家行。

『この様に見性道も、比丘の道も又諸在家の道も同じです。可普行哉。佛言。天王心性の道、出家在家、天龍鬼神も皆同じく聞く耳であり、比丘だけに聞ける耳ではない。在家出家の行相は違ってても出家行は同じである、とお釈迦様は説かれました。』

父母已赦。出父母家。代父母事。三世諸佛無主君故。代事菩薩布佛形家。如生身佛。有佛舍利。如在世佛。出世俗故。不禮國王。不敬天仙。不求財寶。但持一鉢。不畜衣服但持三衣。安住深山。樹下岩洞。清意淨身。身明了覺知自己本佛陀。方佛身一躬法。

『父母は父母事に代わって出家を許しました。三世の諸佛も主君は無い代わりに菩薩として布佛し、生身の佛として佛舍利を持ち、この世で佛の様に世俗を離れて國王でも無く、天仙でも無く、財寶を求めずに、只一鉢と三衣を持って安住深山の樹下岩洞で清意淨身して、己の身は本来佛陀である事を明了に覺知して、自己と佛身は一体の法門に進みなさい。』

この事を実行したのが地藏王菩薩、実際にこの事をしました。自分の国の王位を捨て、仏道を求めて、九華山に登り、洞窟の中で。実は土を食べて暮らしたと。土。食べる物が無くて。又、下界の人達がご飯を持って来ても手を付けずに、ずーっと修行されていた。最後には、今でも有名ですけど、近年において30万人が訪れ、九華山に登って、信仰しお参りしています。

「私が死んだ後、この壺に入れて、三年経って腐らなかつたら、私の身体に金を貼ってくれ」と。「何故金を貼るのか？」と。「これは衆生を護る為にそう願うのです。」と。つまり、結局、「己の身は仏陀である事を明解に知覚。自己と仏身は一体の法門」この事を実行したわけです。

それで、さっき言ったように四大菩薩聖地＝地藏菩薩の九華山、観音菩薩の普陀山、

普賢菩薩の峨眉山、文殊菩薩の五台山。地水風火(地＝地蔵菩薩、水＝観音菩薩、風＝普賢菩薩、火＝文殊師利菩薩)。四大でこの大地が出来て護るという事。ま、今日はここまで。



水源禪師法話集 121

(2023年2月26日 web法話1回目)

2023年4月30日発行

編集兼発行 一乗禅の会